

# 令和4年度第1回糖尿病療養指導士研修会(報告)

主 催 熊本県糖尿病療養指導士会

日 時 令和 4年 8月 27日(土) 13:30~17:00

会 場 名 グランメッセ 大会議室

## ◇『地域で暮らす認知世帯の血糖コントロール』

講師: 榎くますま たつくりハビリサポートセンター所長 川添こず恵先生

在宅療養支援者は、療養経過が長いうえに種々の合併疾患を有しており、近年では夫婦ともに認知症を患っているケースも少なくないそうです。このような状況で在宅療養支援を行うポイントは、薬はシンプルに、1包化、1日1回(回数を減らす)、支援対象者は患者のみならず夫婦であること、受診し説明を受けてもほぼ記憶に残っていない(ことを知っておく)、生活状況に応じた治療方針が重要である、とのことでした。このような方々の糖尿病をはじめとする疾患の薬物管理の難しさ、大変さを症例をとおして伝えていただきました。講演いただきました川添先生、ありがとうございました。

## ◇『地域と連携した療養支援をめざして』

～ くまもとメディカルネットワークを活用した取り組み～』

講師: 水俣総合医療センター 代謝内科外来主任看護師 山下明美先生

水俣総合医療センターでは、県境の地域性から熊本県の枠を超え鹿児島県出水市、伊佐市まで医療連携が広がっているそうです。その中でも代謝内科では、切れ目のない支援・統一した指導・レベルアップを目指し地域での勉強会の開催や糖尿病患者共有シートを使用した地域連携を実施されていました。くまもとメディカルネットワーク(KMN)の介護情報ビューアを使用した情報交換などの実際も紹介されました。くまもとメディカルネットワークはメール機能で時間に制約を受けず多職種で連携できるメリットがあり是非多くの施設に利用してほしいとのことでした。講演いただきました山下先生、ありがとうございました。

## ◇『糖尿病診療と情報の流れ』

～ 患者さんから得る情報・与える情報 アナログからデジタルまで～』

講師: 医療法人ウエルネスサポートシステム とだか内科クリニック 院長 戸高幹夫先生

先生のご施設では、電子カルテを充実され、また様々な工夫を施しスタッフ間の情報共有の実際を紹介いただきました。

また、メディカルケアステーションを利用し、施設入所中の患者の血糖コントロールの実際を症例をとおして紹介していただき地域連携の実際を目の当たりにしました。この地域連携にはセキュリティやシステムづくりが必要、完全ボランティアでの診療となるなど課題はあるそうですが早急に対応できるという面では患者、介護者にとって活気的な仕組みであると感じました。

最後に「チーム医療には情報共有が鍵」という言葉をいただき、どのような施設、立場であっても情報を共有していくことで患者さんによりよい医療が提供できると感じました。

講演いただきました戸高先生、ありがとうございました。

今回の研修会は、ハイブリッド同時開催で行われました。  
ご講演頂きました先生方、誠にありがとうございました。



【戸高先生講演の様子】



【川添先生講演の様子】



【山下先生講演の様子】